

第3章 医療の提供実績

第3章 医療の提供実績

本章では、病院における患者の入院状況や急性期医療の提供状況を示す。

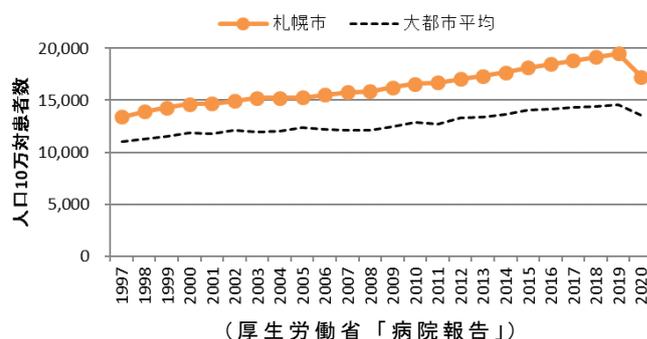
1 病院における患者の入院状況

(1) 新入院患者数

ア 一般病床及び療養病床

一般病床及び療養病床の人口10万人当たりの新入院患者数は1997年以降2019年まで増加し続けており、2019年の大都市平均では14,605.4人、札幌市では19,489.2人となっている。一方で2020年は大都市平均、札幌市とも減少に転じている。

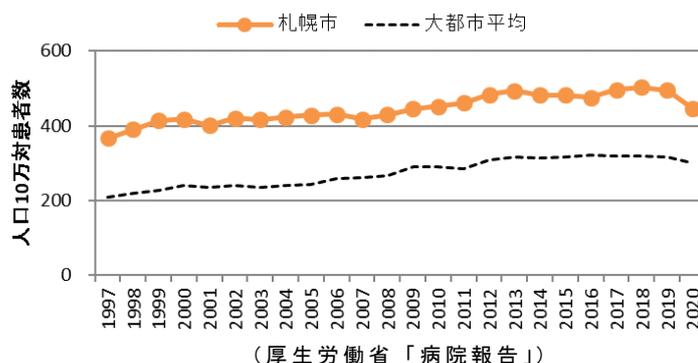
図3-1 人口10万人当たりの一般病床及び療養病床の新入院患者数の推移



イ 精神病床

精神病床の人口10万人当たりの新入院患者数は1997年から増加傾向を示しており、2019年の大都市平均では315.9人、札幌市では494.7人となっている。一方で2020年は大都市平均、札幌市とも減少に転じている。

図3-2 人口10万人当たりの精神病床の新入院患者数の推移

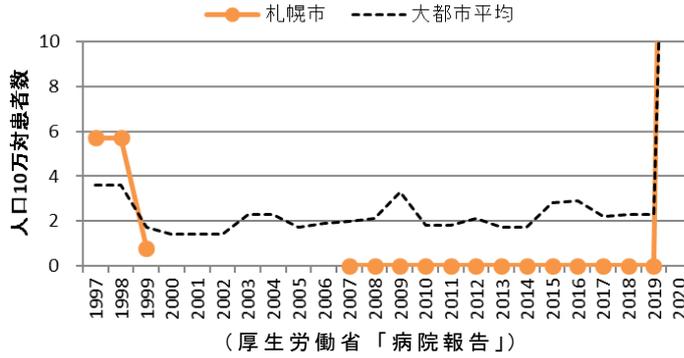


ウ 感染症病床

感染症病床³²の人口10万人当たりの新入院患者数は、大都市平均では2人前後で推移し、2019年には2.3人となった。札幌市では2000年以降2019年までは0人となっている。一方で2020年は大都市平均では41.2人、札幌市では70.9人と大幅に増加している。

³² 1998年までは「伝染病床」(以下本章において同じ。)

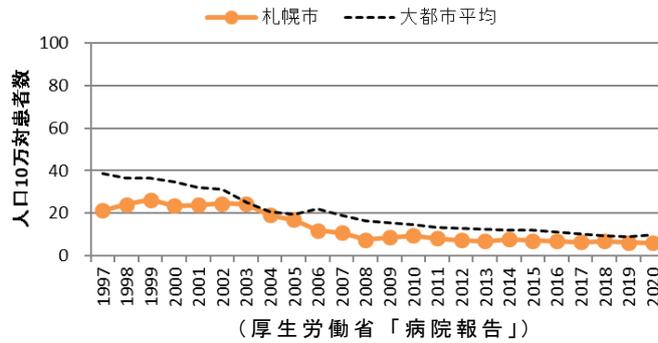
図 3-3 人口 10 万人当たりの感染症病床の新入院患者数の推移



工 結核病床

結核病床の人口 10 万人当たりの新入院患者数は減少傾向にあり、2020 年の大都市平均では 9.8 人、札幌市では 5.9 人となっている。

図 3-4 人口 10 万人当たりの結核病床の新入院患者数の推移

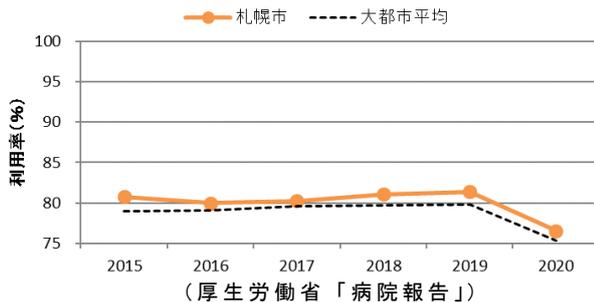


(2) 病床利用率³³

ア 一般病床及び療養病床

一般病床及び療養病床³⁴の病床利用率は 2019 年まではほぼ横ばいとなっている。2020 年は大都市平均、札幌市とも大きく減少し、大都市平均では 75.3%、札幌市では 76.5%となっている。

図 3-5 一般病床の病床利用率の推移



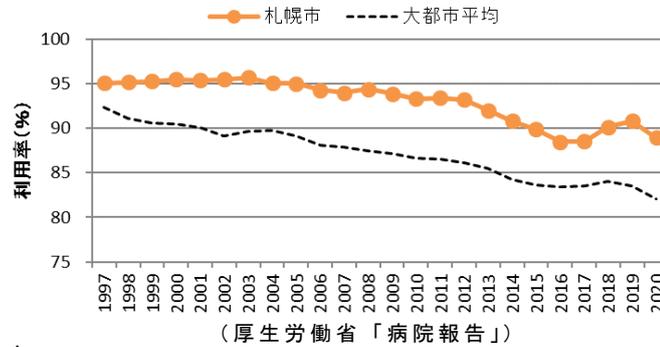
イ 精神病床

精神病床の病床利用率は近年減少傾向にあり、2020 年の大都市平均では 82.1%、札幌市では 88.9%となっている。

³³ 1999 年までは 1 日平均在院患者数 / 当該年の 6 月末病床数 × 100、2000 年からは月間在院患者延数の 1 月～12 月の合計 / (月間日数 × 月末病床数) の 1 月～12 月の合計 × 100

³⁴ 2000 年は「その他の病床」のうち「療養型病床群」を除いたもの、2001 年から 2003 年までは「一般病床」及び「経過的旧その他の病床（経過的旧療養型病床群を除く。）」

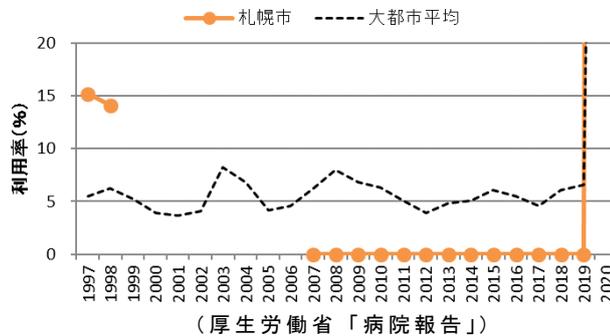
図 3-6 精神病床の病床利用率の推移



ウ 感染症病床

感染症病床の病床利用率は、大都市平均では5%前後で推移し、2019年には6.6%となった。札幌市では、市立札幌病院に感染症病床が8床設置された2007年以降0%となっていた³⁵。2020年は新型コロナウイルス感染症の流行により、大都市平均、札幌市とも100%を超えている。

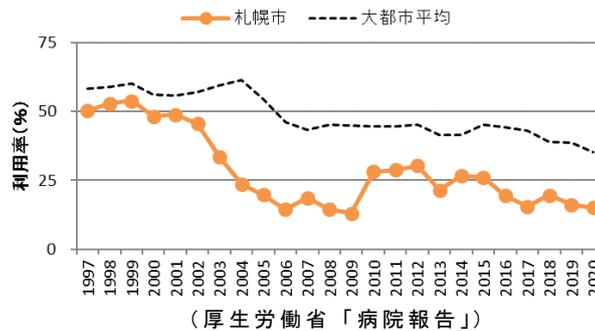
図 3-7 感染症病床の病床利用率の推移



オ 結核病床

結核病床の病床利用率は、減少傾向にあり、2020年の大都市平均では35.3%、札幌市では15.1%となっている。

図 3-8 結核病床の病床利用率の推移



(3) 平均在院日数³⁶

ア 一般病床及び療養病床

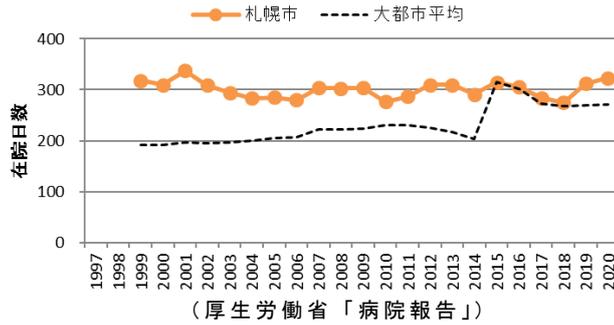
一般病床及び療養病床³⁷の平均在院日数は横ばいであり、2020年の大都市平均では270.7日、札幌市では323.7日となっている。

³⁵ 札幌市では1999年3月に伝染病床が0床となり、2007年5月に感染症病床が設置された。1999年の病床利用率は6月末病床数で除算するため計算できない。

³⁶ 年間在院患者延数 / {1/2 × (年間新入院患者数 + 年間退院患者数)}

³⁷ 2000年までは「その他の病床」のうち「療養型病床群」を除いたもの、2001年から2003年までは「一般病床」及び「経過的旧その他の病床（経過的旧療養型病床群を除く。）」

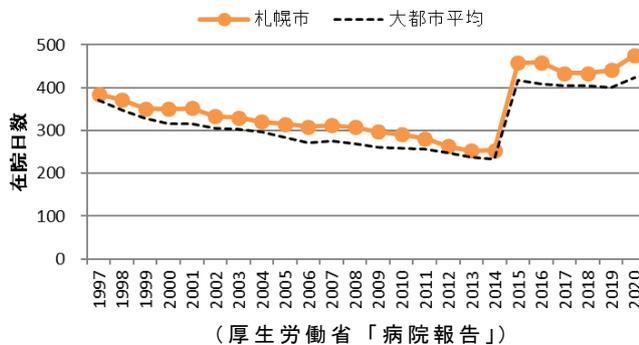
図 3-9 一般病床の平均在院日数の推移



イ 精神病床

精神病床の平均在院日数は 2014 年までは減少傾向にあったが、その後は急激に増加し、2020 年の大都市平均では 423.5 日、札幌市では 476.6 日となっている。

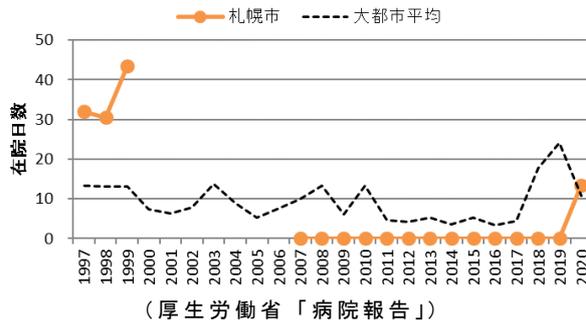
図 3-10 精神病床の平均在院日数の推移



ウ 感染症病床

感染症病床の平均在院日数は、年によって変動し、2020 年では大都市平均では 10.8 日、札幌市では 2019 年までは 0 日となっていたが、2020 年は 13.5 日となっている³⁸。

図 3-11 感染症病床の平均在院日数の推移

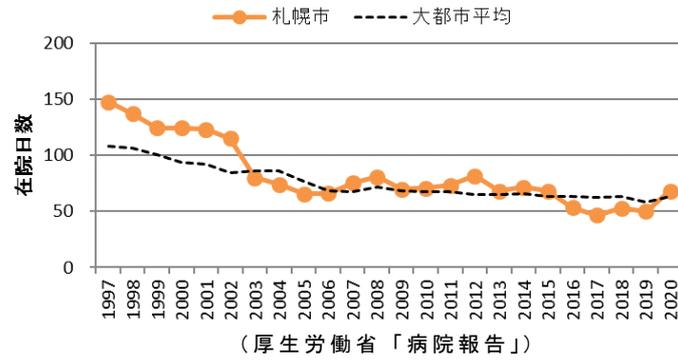


オ 結核病床

結核病床の平均在院日数は減少傾向にあり、2020 年の大都市平均では 63.4 日、札幌市では 68.3 日となっている。

³⁸ 札幌市では 1999 年 3 月に伝染病床が 0 床となり、2007 年 5 月に感染症病床が設置された。このため、1999 年は 1 月 1 日から 3 月 31 日までの入院患者の状況である。

図 3-12 結核病床の平均在院日数の推移



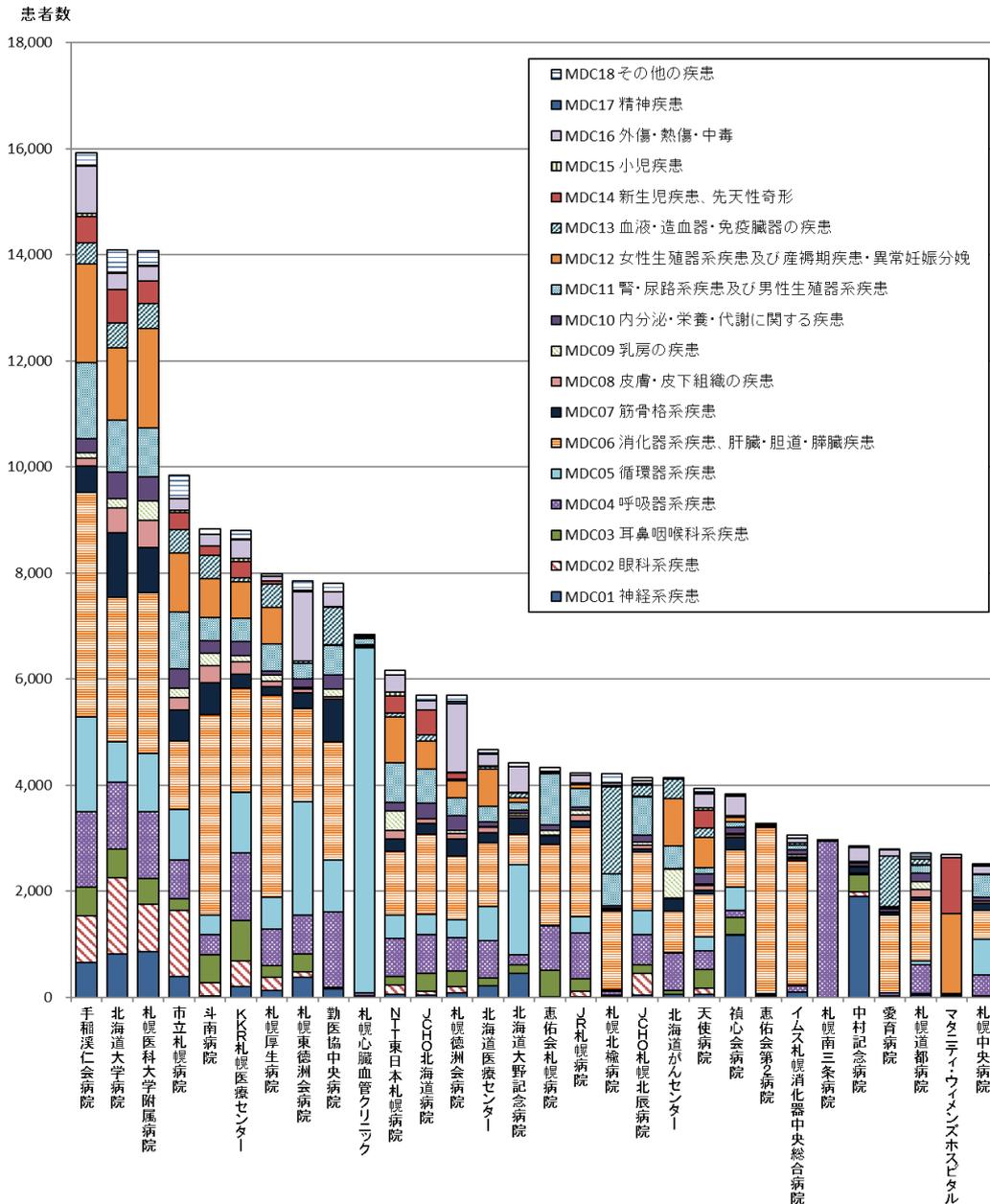
2 病院における急性期医療の提供状況

本項では、DPC³⁹導入の影響評価に関する調査（厚生労働省）のデータを基に、急性期医療の提供状況を示す。集計の対象は2020年度の退院患者とした。

(1) 医療機関別 MDC 別患者数

患者数が多い方から30施設におけるMDC⁴⁰の内訳を示す⁴¹。

図 3-13 医療機関別 MDC 別患者数



³⁹ Diagnosis Procedure Combination (診断群分類)。14桁のコードで表され、傷病名、行われた医療行為、合併症の有無などの情報により患者を分類する。

⁴⁰ Major Diagnosis Category (主要診断群)。臓器系統分類や診療科分類に相当するDPC分類コードの上位2桁であり、全部で18種類ある。

⁴¹ 本項におけるMDC別患者数は「各施設の集計対象合計件数×施設別MDC比率」で算出し、各分類の症例数が10症例未満の患者数も含む。

(2) MDC 別患者数

この節では、図 3-13 と同様に算出したデータを基に MDC 別に患者数が多い方から 10 施設における患者数を示す。

図 3-17 神経系疾患 (MDC01)

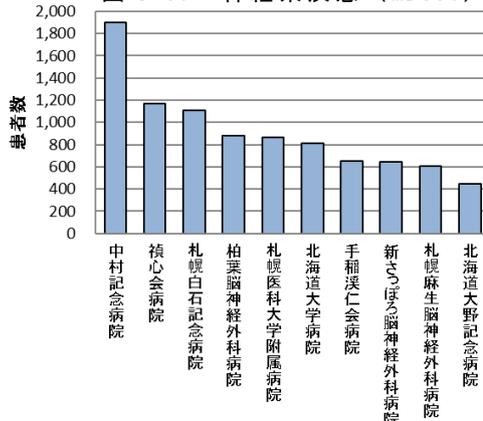


図 3-18 眼科系疾患 (MDC02)

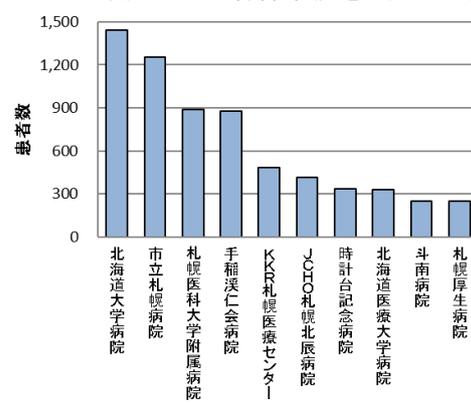


図 3-19 耳鼻咽喉科系疾患 (MDC03)

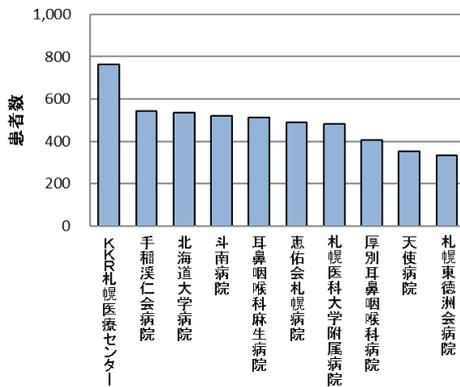


図 3-20 呼吸器系疾患 (MDC04)

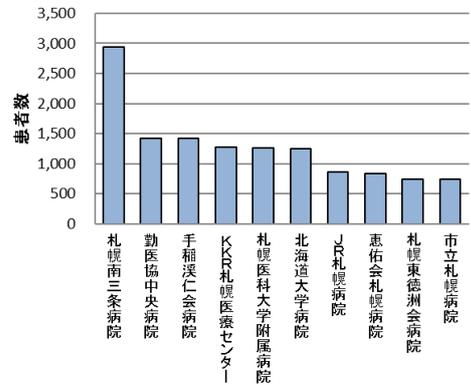


図 3-21 循環器系疾患 (MDC05)

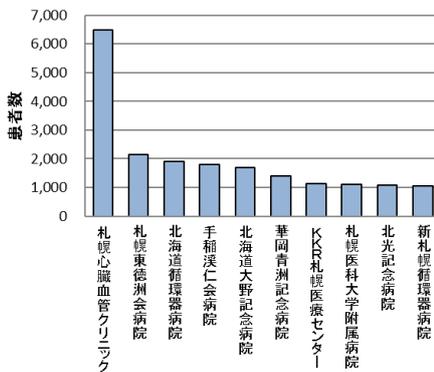


図 3-22 消化器系疾患、肝臓・胆道・膵臓疾患 (MDC06)

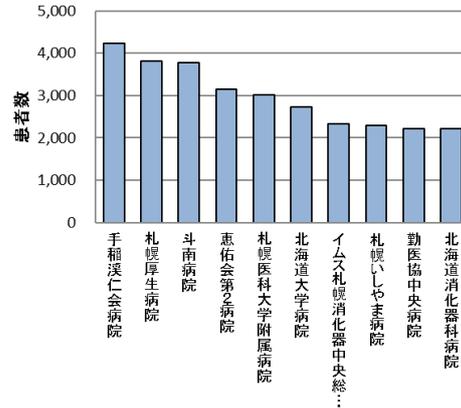


図 3-23 筋骨格系疾患 (MDC07)

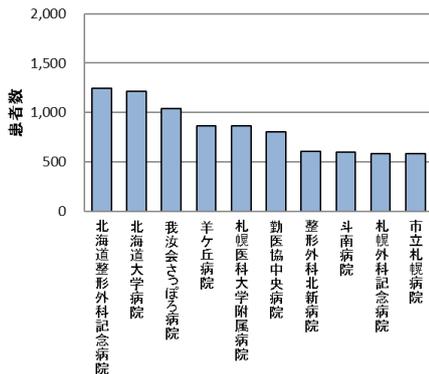
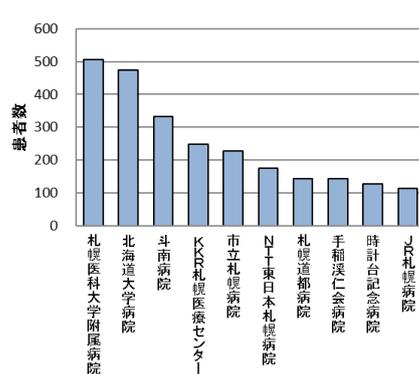


図 3-24 皮膚・皮下組織の疾患 (MDC08)



(3) 急性期機能に関する行為別患者数

この節では、手術⁴²、化学療法⁴³、放射線療法⁴⁴、救急車搬送⁴⁵、全身麻酔⁴⁶の件数が多い方から10施設における患者数を示す。

図 3-35 手術を受けた患者数

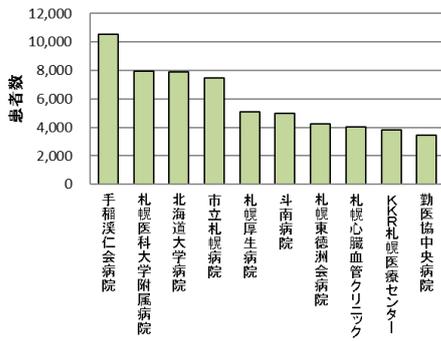


図 3-36 化学療法を受けた患者数

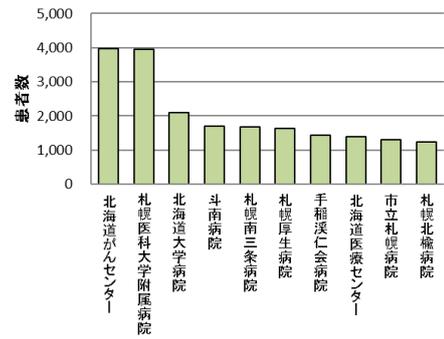


図 3-37 放射線療法を受けた患者数

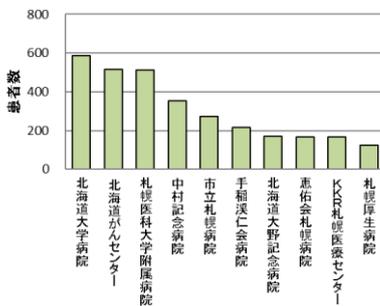


図 3-38 救急車搬送された患者数

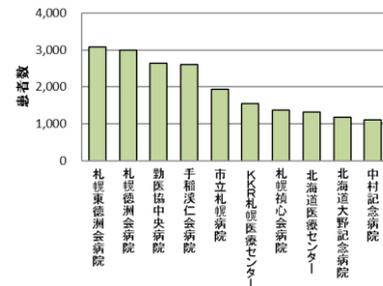
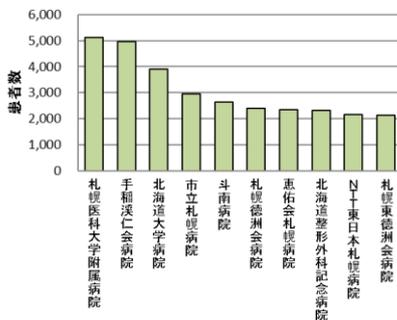


図 3-39 全身麻酔を受けた患者数



42 輸血（K920：医科診療報酬点数表の区分コード）、輸血管理料（K920-2）及び術中術後自己血回収術（K923）を除く。

43 傷病分類が悪性腫瘍に該当し、かつ抗悪性腫瘍剤を使用したもの

44 特掲診療料の放射線治療があったもの

45 救急車による搬送であり、かつ、入院経路が「家庭からの入院」「他の病院・診療所の病棟からの転院」「介護施設・福祉施設に入所中」のもの

46 開放点滴式全身麻酔（L007）、マスク又は気管内挿管による閉鎖循環式全身麻酔（L008）のいずれかを行ったもの